

餓鬼について

平成二十五年九月十七日 於加茂法話会

◎餓鬼は、サンスクリット語でPreta プレータ、死者の霊のことで、子孫の供え物を常に待っている死者、飢餓に苦しむもの、餓鬼というイメージが作られる。その姿は醜く、身長は三尺（約九十センチメートル）ほど、黒い皮膚と筋と骨だけで、非常に痩せ細っているが、腹だけが異様に脹れ上がっている。また口からは常に火を吹き、物を食べようとしても黒く焦げて食べられず、喉は針の如く細く、髪と爪は伸びぼうだいで、顔は鬼の形相である。餓鬼の住処は、廁、下水等の不浄の所を好む。しかし、まれには花や果物のなる林、種々の木の上、宮殿などの清浄なる所に住している有威徳餓鬼もいる。いずれも体にはかびがはえて醜いため、昼間は姿を見せず、日暮れより深夜にかけて食物を求めて歩きまわる。ちようど人々が寝静まる三更（午後十時）頃に、いちばん動きまわるという。

また、餓鬼の寿命は五百歳で、人間の一ヶ月をもって一日であると云うから、その三十倍の長さである。

そうした餓鬼にも種々多様なものがおり、『正法念処経』には三十六種の餓鬼を説いているが、空海は『十住心』にその内の八種を示す。

- 一、針口餓鬼 物を惜しんだり、人を恨むあまりに、人を雇って殺す者、また仏様や寺院に施すに、実際には金品があるのに、それを偽って施しを惜しむ者は、喉が針のように細い餓鬼になる。
- 二、食吐餓鬼 夫を欺き惑わして、自分だけ美食する等の贅沢三昧をする妻、また反対に夫がそのような行為をする場合は、食物を食べようとしても、すぐに吐いてしまう餓鬼になる。
- 三、餓糞餓鬼 物し貪り惜しんで不浄の食を僧侶にさし出し、それを知らずに食べたならば、糞等を食べる餓鬼になる。
- 四、無食餓鬼 物を惜しみ、人を妬むため、自分の強い力をたのみにして、人に罪をきせて死にいたらしめても、懺悔の気持の起らない者は、食べることが出来ない餓鬼になる。
- 五、食水餓鬼 ある人が酒を売るのに、水と灰とを加えて愚人を惑わし、布施をせず、福德を修せず戒律を持つことがない。これらの悪行をなしても後悔する心がなければ、食べる物は水だけという餓鬼になる。
- 六、燃燃餓鬼 人を貧り妬んで財産を奪ったり、家を破壊したり、人を殺害したり、物を盗んで賄賂とする等の凶悪をすれば、口から火を吐く餓鬼になる。
- 七、欲色餓鬼 売春防止法にそむく行為で財産を築き、人々に施しをしても、それは色欲による清らかなない心による施しであるから、如意夜叉の餓鬼となる。
- 八、魔羅身餓鬼 邪道を行じ、邪見の法を説き、これが真言だと思ひ込んで正しい法を信じない者は、身を殺す餓鬼になる。

東方は布施位に当る。（施無畏）南方は閻魔界の方角にして、餓鬼衆は閻魔界に住する。不空儀軌。

『優婆塞戒經第一卷・六波羅蜜 東方・檀波羅蜜・布施 南方・尸羅波羅蜜・持戒 西方・羸提波羅道・忍辱 北方・毘梨耶波羅蜜・精進 下方・禪波羅蜜・禪定 上方・般若波羅蜜・智慧

供養の時間。◎世尊が阿難に

「毎晨朝及び一切悉く障礙なからん」朝六時から十時、何時でもよい事になる。「焰口餓鬼陀羅尼經」

◎早朝時に於いて（日没の時、また、亥の剋（夜十時）は諸天衆が歡喜して、この地上に降臨してこの作法を無し、靈驗あるのみ。焰口軌儀經。

◎ 生飯台の上に置く本法なり、

上の五更（午前四時頃から早朝日の出）に於いて是供養の時諸仏聖人に供養。

鬼神の施食法は、人の寝静まる。子の時、午前十二時にすべきである。阿闍利法をもとにする。